

## 河川事業再評価 補足資料

令和5年8月22日

宮城県

## 1 コスト縮減(前回評価から今回評価まで)

➤ 南沢川  
調査中

➤ 雉子尾川

約30,000m<sup>3</sup>の築堤盛土に流用土を利用することで、約1.5億円のコスト縮減を行った。

➤ 小田川

約20,000m<sup>3</sup>の築堤盛土に流用土を利用することで、約1.0億円のコスト縮減を行った。

河川名	流用土(m <sup>3</sup> )	縮減額 (億円)
南沢川	調査中	調査中
雉子尾川	30,000	1.5
小田川	20,000	1.0

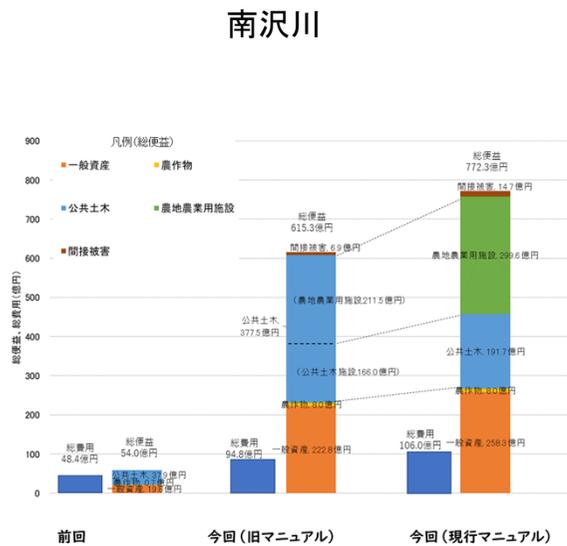
## 2-1 便益の変化要因

### 変化要因① 治水経済調査マニュアル改定 H17.4⇒R2.4改訂版

- 公共土木施設等被害の見直し(農地・農業用施設等被害額の算定方法の変更)  
※特に農地面積が多い河川で影響大
- 近年の水害データをもとに被害率等を更新(総じて被害率等は高くなっている)

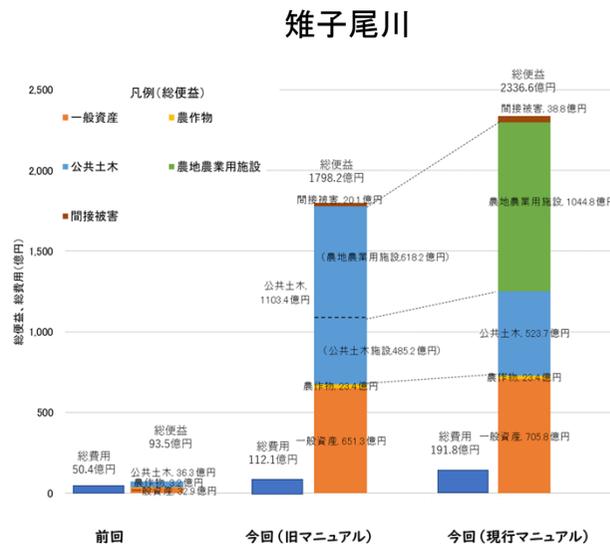
### 変化要因② 便益算定精度向上と基本データの更新

- 氾濫解析により氾濫区域と浸水深を算出(前回評価より浸水深は深くなっている)
- 氾濫が発生しない流量(事業着手前の河道の流下能力)を精査(高頻度確率で発生していた小規模氾濫による被害額も算定)
- 国勢調査等の基本データを最新公表データに更新



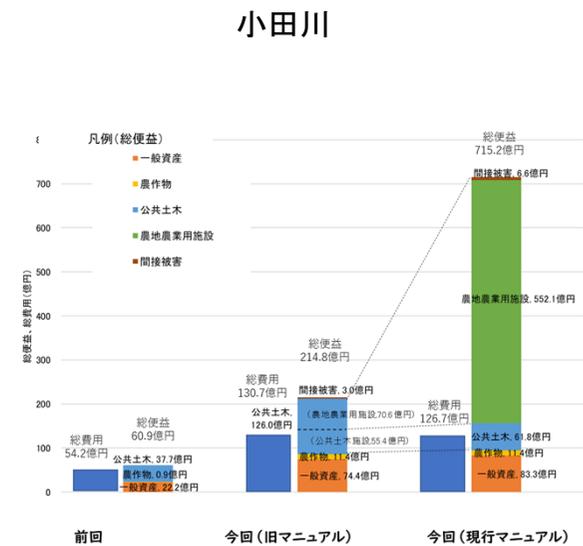
変化要因②

変化要因①



変化要因②

変化要因①

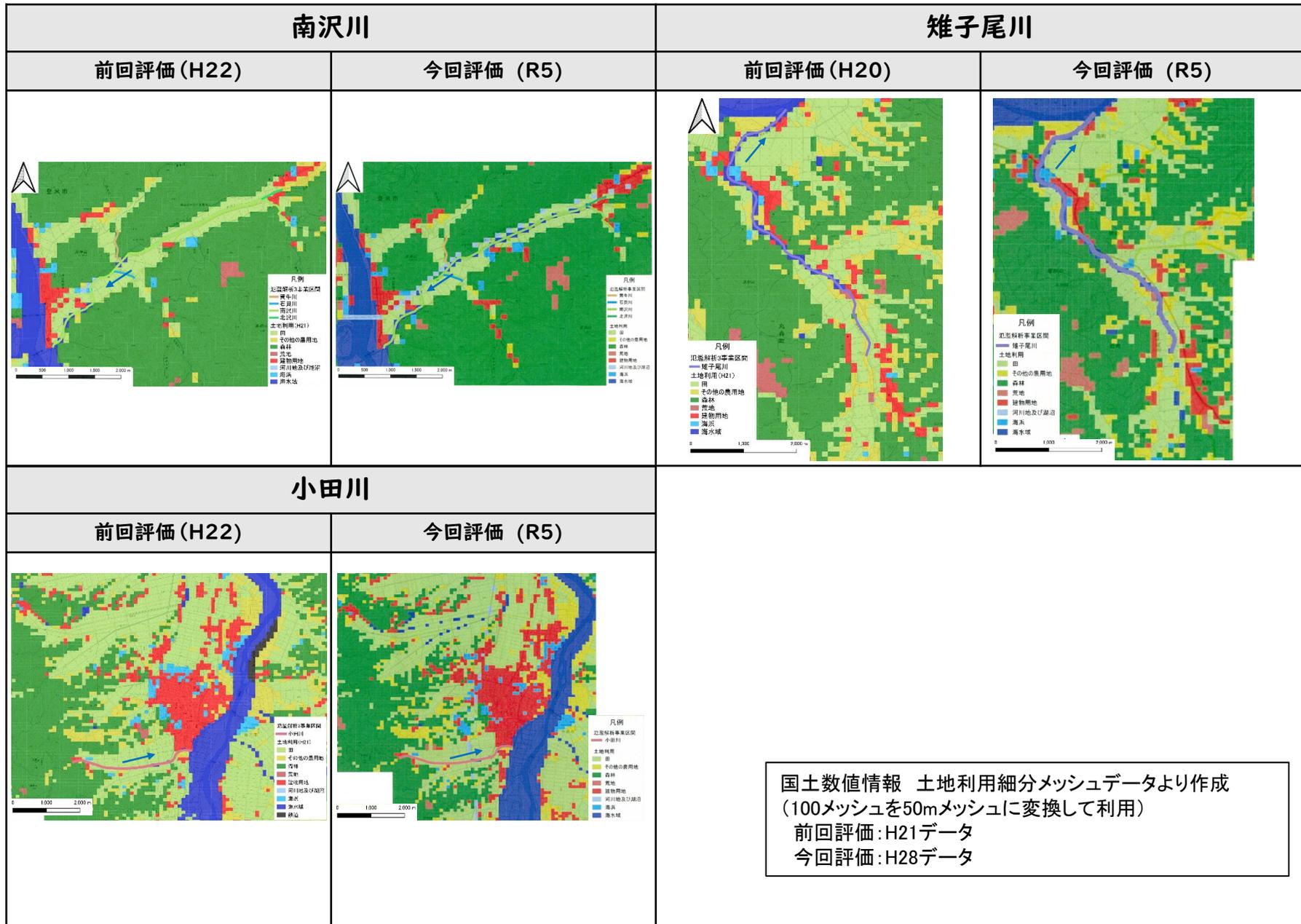


変化要因②

変化要因①

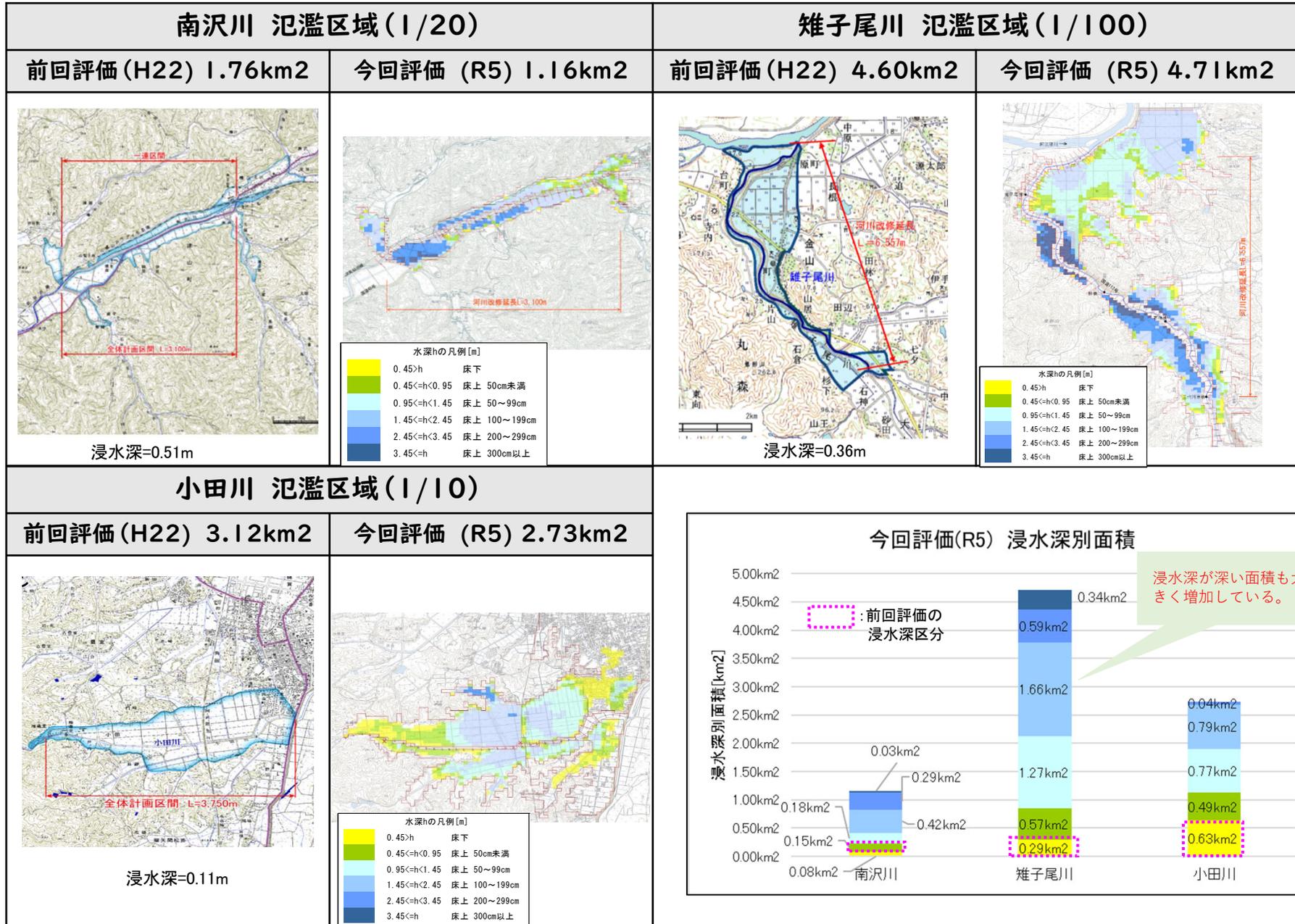
## 2-2 土地利用の変化

➤ 3河川とも、土地利用に大きな変化はない。



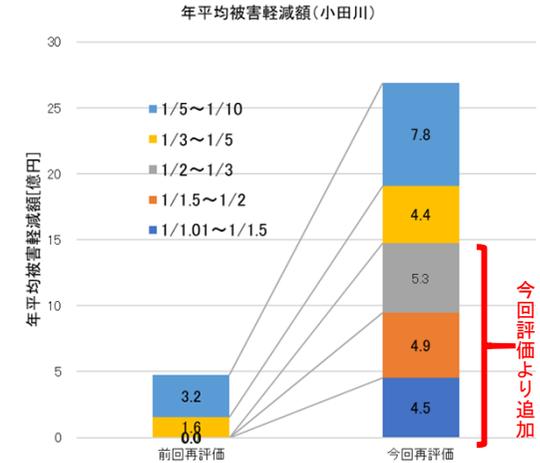
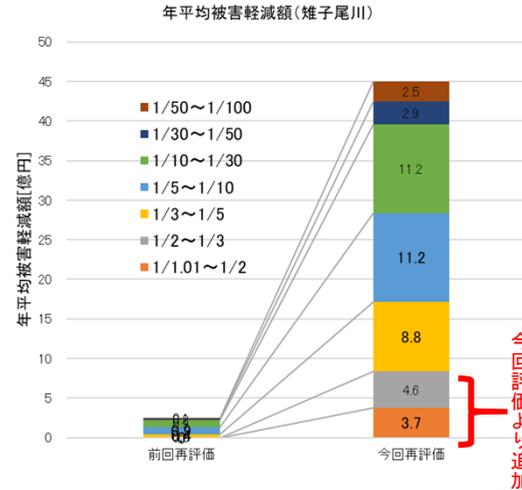
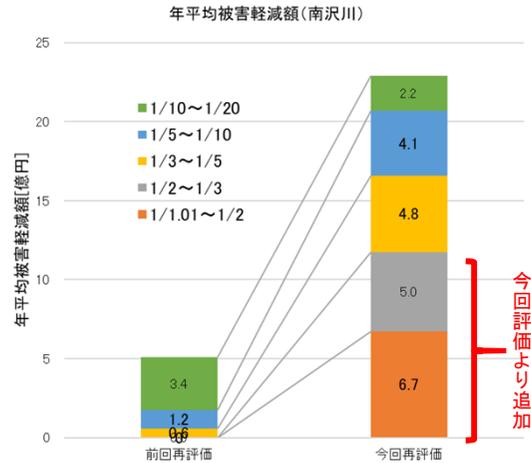
## 2-3 変化要因②補足データ(浸水深) (1/2)

➤ ②-1 氾濫解析により氾濫区域と浸水深を算出(前回評価より**浸水深は深くなっている**)



## 2-3 変化要因②補足データ (2/2)

- ②-2 氾濫が発生しない流量（事業着手前の河道の流下能力）を精査（高頻度確率で発生していた小規模氾濫による被害額も算定）



- ②-3 国勢調査等の基本データを最新公表データに更新

項目	前回評価	今回評価
人口・世帯数・農漁家数	国勢調査(H17)	国勢調査(R2)
延床面積	国勢調査(H17)の世帯数*平均家屋面積	日本建設情報センター(JASIC) 100mメッシュデータ(H22)
水田・畑面積	宮城県統計年鑑(H20)より設定	国土交通省 土地利用細分100mメッシュデータ(H28)